

富山市総合計画審議会第4回安全部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 第4委員会室

日時：平成18年7月6日（木）

10：00～11：45

1 開会

2 企画管理部長あいさつ

老月企画管理部長あいさつ

6月30日（金）に基本構想（案）について諮問したが、本日は安全部会としてさらなる議論をお願いし、答申として取りまとめをさせていただきたいと考えている。

3 部会長あいさつ

竹内部会長あいさつ

本日は、安全部会として、答申前の最後の部会となるので、様々な角度から議論いただきたい。

4 議事

・総合計画基本構想（案）について

<概要>

（部会長） まず、本日配付された資料について説明をお願いしたい。

（事務局） 資料について説明

（部会長） 基本構想（案）については、先日の全体会で説明もあったので、早速議論に入りたいと思う。

（委員） 基本構想（案）を読んでの感想であるが、時代の潮流の中に（2）日常生活における危機感の高まりを掲げるなど、よくまとまっている。これを具体策で肉付けしていく必要がある。

（委員） 6月30日の審議会では、富山市に住むことに誇りを感じられることを盛り込むことや、富山市の独自性を表現できないかという意見があった。

富山市にとって、何が誇りで何が独自性かということを考えると、まず、非常に広範な面積を有すること、その7割を森林が占めることがある。

例えであるが、時代の潮流に項目を追加して、動植物の生息地になったり、市民の生活を守ったり、レクリエーション活動の場となるなどの森の恵み（公

益的機能)に関することと、森が暗くなっていることや、熊が人里近くに現れていること、放置竹林、人材不足などの、森林が荒廃していることを書き込み、さらに、これに対して地域や市民が対策をとらなくてはならないことを表現してはどうか。

また、4 暮らしの安全を守る森づくりのところの文章を「全国に誇ることのできる水と緑の豊かな森を有する本市にあってその公益的機能を低下させないよう市民参画のもと森づくりを推進します。また、豊かな里山整備による人と野生生物との共生を図ります。」に改めてはどうか。このことにより、6月30日に出た意見を解きほぐすことができるのではないかな。

(部会長) 6月30日の意見に対して、事務局としてどのような対応を考えているのか。

(事務局) 今ほどお話のあった誇りに関する部分は現在検討中である。

ただ今の森林のご意見については、全国的な課題を時代の潮流としているのに対し、富山市の課題としてまちづくりの主要課題を12項目設定しているものである。その中で、新しい富山市の広範な部分を森林が占めていることから、(5) 森林政策として重要な課題と位置づけているものである。

(委員) 富山市の面積の7割を森林が占めていることから、委員が述べた文章を付け加えるべきではないか。また、27頁の〈森林機能の再生・強化〉の部分については、ボランティア活動などの市民参加による森林の保全活動も重要であるが、それ以前に“林業の振興”がないと十分ではない。林業に携わっている方々は懸命に努力をしているが、どうしても行政のサポートが必要な面が多い。富山市だけでも毎年150ヘクタールの森林整備が必要であるが、林業従事者の高齢化が進み、危険度も増し、作業効率も悪くなっている。このことを強く意識しなくてはいけない。

(部会長) 基本構想(案)の中で、林業を強調した表現はあるのか。

(事務局) 36頁の4新しい価値を創造する活力ある産業の振興の中で、全ての産業について記載しており、林業については、基本計画や実施計画の段階ではここに記載することを想定している。

先程の27頁の部分は、産業面以外の公益的な面からの森林政策について記載しており、2つに分けている状況である。

(委員) 合併前の旧町村では森林面積も大きいことから林業は重要な位置づけであった。大きな市になった今、総括的に産業の中の林業としてとらえると見落としがちになるのではないかな。

(部会長) 森林機能の再生という観点では今の文章でも包含しているようにも感じるが、文章として追加することは可能か。

(委員) まちづくりの主要課題の中で、(3)危機管理・防災対策という項目と(9)地域力の強化という項目があるが、これを市民がわかりやすいように基本計画や実施計画で表現しなくてはならない。

(部会長) これらの意見に対して、事務局としてどうか。

(事務局) 富山市の特徴を、という意見があったが、基本構想は、色々な立場の方からご意見を伺って作成しているものであり、行政活動全てを盛り込むと、全ての市町村同じようなものになると考える。

ただし、基本計画になれば事業の位置づけなどから、富山市らしさが出てくるものと考えている。

(部会長) 森林に対する意見が多いようだが、その他について意見はないか。

(委員) 防犯・防災活動をする団体が各校区ごとにできてきているが、それらの活動はほとんどが自発的な活動であるため、団体同士の横のつながりがほとんど無い。校区内でもつながりが無い状況である。市全体を知る上で、安全部会のリーダーが講話するなど、連携を取ることでできる場づくりが必要ではないか。

森林の問題については、旧富山市民はその現状をほとんど知らないので、知らしめることが必要ではないか。

また、危機管理・防災対策についても、何かあったときに、市民として何をするのかを箇条書きにしたり、歌にして覚えやすくしたりするなど、富山市として独自の対策が必要と思う。

(部会長) 情報を共有することは大変重要である。富山市は非常に広くなった。情報を共有しながら農山村や市街地のバランスが取れたまちづくりをしなくてはならない。そのためには、今後どのような具体策をピックアップしていくかが重要である。

(事務局) 今後基本計画を策定していく際のイメージとして、施策の具体的方向(例)を6月30日にお配りしたところである。

また、細部にわたるご意見をいただければ、今後の基本計画策定の際に参考にさせていただく。

(部会長) 基本計画や実施計画を検討する際には、施策の具体的方向(例)の中で、今後どれを重点化していくかを議論することになる。

(委 員) 森林政策の話になるが、森林の整備にあたっては、産業としての林業と切り分けが必要なのではないかと思う。林業を市の一大産業にすることはなかなか難しいように思う。市の施策として森林にどのような役割を持たせるのか、という観点から施策の方向性を出し、基本構想（案）としているのではないか。

(委 員) 林業はいわゆるハードウェア、ボランティアなどその他の活動はソフトウェアのようなものと思う。林業で本格的にてこ入れしていかないと、森林は荒廃してしまう。両方相まっていかなければならない。

(事務局) 県が森林税を導入することとしており、その点も含めて検討したい。

(委 員) (5) 森林政策のあたりで、森が荒廃していて地域の安全を脅かしつつある問題に触れ、27頁の4 暮らしの安全を守る森づくりについても先程の述べた意見等をもう少し書き込んではどうか。

また先程、情報提供や連携について意見があったが、最近の悪質商法は巧妙になっている。悪質業者の情報が速やかに供給される仕組みづくりのためにも、25頁の〈安全・安心な消費生活の推進〉のところで、“相談業務の充実、”の後に“地域間の連携”についての表現が入ったら良いのではないか。

また、同じところで“豊かな食生活の確保”という表現がある。地産地消に対する住民の意識は既に醸成されており、地場産品を小売店舗に並べると瞬く間に完売してしまう状況である。地産地消を進める上で、25頁の〈安全・安心な消費生活の推進〉か、36頁の〈とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり〉のどちらかに地場産品の安定供給について記載が必要と思う。

(委 員) 参考までに言うと、36頁の〈とやまの活力を生み出す人づくり〉のところで、地産地消を担う生産者の減少に対する危機感についての表現が欠落しているのではないか。

(部会長) 活力部会に属する分野の話であるので、活力部会にこの意見を伝え、検討してもらうこととする。

(事務局) パブリックコメントなども並行して実施しており、全ての意見を反映することが出来ないことに留意願いたい。また、今後基本計画や実施計画でも検討することになるが、総合計画以外に個別の部門計画もある。ただいまのご意見等は本年度策定中の農林漁業振興基本計画でも具体的に検討されるものと思う。

(委 員) 子どもたちには、食育の大事さを積極的にアピールしなくてはならない。食育に関する記載が軽いように感じられる。

(部会長) 基本計画などで、具体策を検討することになるのではないか。

(委 員) 市民に読みやすい総合計画という観点から言うと、リデュース、リユース、リサイクルやストロー現象などのカタカナ標記には()書きなどの解説が必要ではないか。

また、市民レベルでゴミを持ち込むなどエコタウンの中間的なシステムについて、総合計画で検討してはどうか。

(部会長) その他にも、グローバル化、ボーダーレス化などの表現がある。用語集の作成も併せて検討してほしい。

また、33頁では、おもてなしの心(ホスピタリティ)という表現があるが、他と統一されていないのではないか。

リサイクル(再利用)となっているが、(再生利用)ではないか。

欧米では、ゴミが出しやすいため、分別がしっかりと行われている。日常的に分別してゴミを出しやすいシステムについて検討しなくてはならない。

(事務局) (ホスピタリティ)については削除し、リサイクル(再生利用)と訂正したい。また、カタカナ標記などについては用語集の作成も併せて検討したい。

(委 員) 今エコタウンでゴミを出しやすい体制づくりの受け皿になれるか検討しているところである。

(委 員) 最近不在家屋が増えてきており、地域の安全対策上問題が生じてきている。市として何か対策を講じることができないか。

(事務局) 他人の所有物に対し、本人の了解無しに立ち入ることは難しい。

(委 員) 犯罪などの角度から何かできないのか。

(事務局) 管理が行き届いておらず、犯罪に利用されかねないといった場合には、所有者に対して、適正な管理をお願いしている状況である。しかしながら、個人情報に関わる部分も大きいことから、なかなか難しい問題である。

空地になっている場合には、草刈などの作業を行政が行い、代金は所有者が支払うシステムはある。

(委 員) まちづくりの目標である5つの柱について、縦ではなく、輪になって繋がっているなど有機的なつながりを表現すれば良いのではないか。

例えば、人間の生涯の発達を考えたときに、まず人間が幸福感を達成するためには、まず命の安全が確保され、生命を維持できることが土台にある。次に安全から心の安心が生まれ、安心から心にゆとりが生まれ、そこから潤いが出てきて、最後に活力が生まれるように思う。その活力をもとに行政と市民や市民同士の協働が生まれて再び安全に戻るのではないか。全てが繋がっているように思う。

人間を取り巻くものは全て環境であるが、自然環境にウェイトが偏っているように感じられる。安全を支える土台には、自然災害と人為的災害の2つの領域に対応することが重要と思う。そのうちの自然災害に対する安全の部分は非常に議論されていると思うが、人為的災害に対する安全については少し手薄なのではないか。

また、社会やまち、人の心、自然の健全性について表現が足りないように感じられる。健全性については、安心分野で多く書かれているが、何か起こった時には安全分野に関わるものと思う。

活力分野の話になるが、暮らす人が活力を持てるまちづくりをしなければならなかったら、産業振興もその中の観光に偏っているように感じられる。まずは中の人の活力を生み出すことが大切である。暮らす人に活力があればこそ、観光が成り立つと思う。

協働についても、市民同士の協働という観点だけではなく、市民と行政の協働という視点もあることを理解しておかないと、最終的に責任のなすりあいになりかねない。

また、先程議論のあった富山らしさや富山の誇りに関しても、行政に頼っていてはいけない。個々人が富山らしさを自らの活動の中に見つけ、誇りに感じるようにならなくてはならない。インキュベーションという言葉があるが、市民の醸成、育成という方向性により、市民から誇れるものが出てこないといけない。

最後のまとめとして、課題と有機的なつながりが表現されれば、全体としてうまくつながるのではないか。一つひとつは深く議論されているが、それぞれがうまく繋がれば良いと思う。

(部会長) 基本理念である共生・交流・創造が5つのまちづくりの目標を結びつけると考えてよいか。基本理念が共生・交流・創造であれば、全ての柱の中にそれが含まれていなくてはならない。

(委員) 本日議論のあった森林の話に自然との調和の観点から付け加えると、森林に連動する自然、例えば空気であったり水であったり、そういったものと最終的にバランスをとってもらいたいと思う。

その森林に連動する自然に関する視点を失わないで10年先を見据えて、具体策を考えていくべきではないか。

(委 員) 25頁の2 人と自然にやさしい安全・安心なまちづくりのところで、安全で快適な生活環境だけでは、人工的な環境に囲まれた生活をしているようなイメージがある。そのような環境で育った青少年が犯罪を起こしている。自然に近い環境で育つことにより、心も安全になることから、“環境保全対策の強化を図るとともに、”の後ろに“自然と調和した”を加えてはどうか。

(部会長) 事務局は、カタカナ標記のところについて、用語集を作成するかどうかも含めて検討してもらいたい。

また、〈森林機能の再生・強化〉の部分で、“林業の振興及び”を“ボランティア活動などの”の前後へ加えるのかということと、25頁の2 人と自然にやさしい安全・安心なまちづくりのところで、“自然と調和した”という表現を加えるかどうか検討してもらいたい。

他に意見がなければ、これにて本日の部会を終了する。なお、本日の委員の皆さんの意見については、今月18日に行われる協働（調整）部会で報告させていただく。

5 閉会

(以上)